

カリブで上陸拒否 英客船

日本人ピアニスト 乗客激励

新型コロナ



クルーズ船「ブレイマー」で乗客と交流する
ピアニストの平井元喜さん(中央)

12日(平井さん提供)

心通わす本音の交流

新型コロナウイルスの世界的感染拡大の中、英国発のカリブ海クルーズ船で感染例が見つかり、各国が乗客上陸を拒否、どこにも寄港できない状態になった。乗客は英国人中心に約700人で高齢者も多数。船上リサイタルのため乗っていた日本人ピアニストが、不安を和らげようと乗客と交流を続けた。大戦中の日本軍に対する複雑な感情に触れ、心を通わせた場面もあった。

英ロンドンを拠点に活躍するピアニスト、平井元喜さん(47)がクルーズ船「ブレイマー」の船内放送で乗客ら5人の陽性反応を知ったのは10日。8日にコロンビアの港で下船できたのを最後に、乗客らほどの国でも上陸を断られた。

交渉の末、船は16日に乗客上陸を認め、キユーバに向かうことに

なったが、動向を知らせる船長の放送のたびに乗客は静まり「全身を耳にして聞いた」と平井さん。70、80代が多く、90代とみられる人も。「彼らは明るく振る舞っているが、不安があるだろう」

演奏家として乗船した平井さんは、乗客から乗員との「中間的立場に見られている」と感じる。不安を隠し、

船内で出会った人々に積極的に声を掛け会話を続けている。

「今から話すこと、悪く思わないでくれ」。平井さんと親しくなった77歳の英国人医師が厳しい口調で語りはじめた。ビルマ戦線での日本軍の行為を現地調査した人だった。残酷だったと訴える横で、別の英国人は「でも英国もインドにひどいこと(植民地支配)をしてきた」となだめた。医師は平井さんを最後に強く抱擁し「僕らは今まで通り友達だからな」。

コロナウイルスの不安に揺れる船が生んだ思わぬ交流。平井さんは「日本では原爆を振り返り平和を訴える。一方、自分たちのしたことあまり知らないが、英国人がインドで歴史を公平に見ていきたい」と振り返った。